

## ■ わが師井上宇市とドイツ

田中辰明 お茶の水女子大学名誉教授 特別会員

1992年2月にドイツのハンブルグで開催されたドイツ技術者協会・建築設備部会総会の壇上に我が師井上宇市は立っていた。当時、その建築設備部会長のシュツットガルト大学バッハ教授から“日独の建築設備技術の発展と技術交流に貢献した”との理由でヘルマン・リーチェル荣誉メダルを授与された。そして、井上宇市は会場一杯の会員に向かいドイツ語で謝辞を述べた。随行した筆者も初めて聞く師のドイツ語に内心冷や冷やもしたが、大きな声で立派な謝辞であった。“自分の建築設備は独学であり、特にヘルマン・リーチェルの教本から学んだことが多い。それだけに本日の受賞はうれしい。涙が出るほど嬉しい”という趣旨のものであった。帰国の飛行機の中でもこのことを繰り返し筆者に語った。ドイツ語での謝辞は決してお世辞ではなく、本心から出たものであった。受賞の理由となった日独の技術交流とは1985年4月16日に行われた(社)空気調和・衛生工学会主催の日本・西独暖房シンポジウムの開催であった。日本側代表として出席したのが、井上宇市であり、ドイツ側代表はバッハ教授であった。これを契機に“暖房研究会”というものも設置され、暖房技術に関する研究が行われた。この研究会の代表がやはり井上宇市であった。毎年一度はバッハ教授が来日し、日本の暖房研究会の研究成果とドイツの技術の意見交換と発表を行うことが続けられた。この研究会は東京のみならず、北海道、岩手でも行われた。このようなことが受賞理由であった。当時の研究テーマは暖房を中心とした熱的快適性のこと、さらに低温式温水暖房が中心であった。さて師井上が尊敬していたヘルマン・リーチェルとはどういう人物か？

1847年4月19日にドレーズデンで生まれた。父親は有名な彫刻家でエルンスト・リーチェルといった。ワイマールのゲーテ・シラー記念碑や多くの彫刻をつくった。子息のヘルマン・リーチェルは1867年にベルリンに移り、王立工芸アカデミーで機械工学を専攻した。ここを卒業後1871年に暖房、換気、衛生設備の工事会社を設立し、会社を急成長させた。リーチェルは、1880年に実務の傍ら著作活動に入った。まず、ドイツの“建築ハンドブック”で暖房と換気の章を執筆した。この時期に、後にベルリン工科大学となった当時のシャロットテンブルク工科大学から暖房と換気の講座をつくるために招聘を受けている。ベルリンに新しく建設される国会議事堂の建築設備審査委員などになり、ベルリン工科大学の教授・学長にも就任している。多くの業績を残したが、名著“換気と暖房装置の計算



1992年にハンブルグでヘルマン・リーチェル荣誉メダルを授与された井上(右)

と設計のための教本”を著した業績は大きい。この初版は、1893年に出版されて以来多数の改訂版が出版された。これまで職人の技であった暖房・換気技術に学問の裏づけが行われたのである。この著作は2巻からなり、1巻は負荷計算や配管の設計法など理論を扱い、2巻では建築設備機器の図面を紹介している(父親の血筋を引き絵が非常に上手でボイラ、放熱器、送風機などの断面もわかりやすく図示していた)。

井上宇市は修業時代にこれらの本を丹念に読んでいるし、自らが著し多くの読者を得た“建築設備ポケットブック”、“空気調和ハンドブック”に影響を与えた。

筆者が若年のころ、“実は外国でも勉強してみたい”と師に相談したことがある。師は“それならベルリン工科大学のヘルマン・リーチェル研究所に行くのがよい”と迷いのない回答を出した。当時は外貨の持ち出し制限もあり、自費留学などではできない時代であった。幸いドイツ政府の留学生試験に合格し、DAAD(ドイツ学術交流会)の留学生としてヘルマン・リーチェル研究所で1971年から73年まで建築設備を学ぶことができた。このときにも推薦状を書いてくださったのが師井上宇市であった。筆者にとってこの留学がなかったならば、人生はまったく異なったものになったと常々思っている。筆者の滞在中に師井上の訪問を受けたこともあった。ヘルマン・リーチェル研究所では、有為な方々と知己となり交友関係は現在も続いている。2010年7月12日にヘルマン・リーチェル研究所は創立125周年の記念式典を催し、筆者も招待され祝辞を述べることができた。このようなきっかけをつくってくれたのは

師井上のお陰である。老境に入った井上は東京杉並の施設で生活するようになっていた。常に我々を励まし、いつも張り切った生活をしてきた師が日に日に弱っていくのを見るのはなんとも悲しく嘆かわしいことであった。2009年に入り井上はこの世と黄泉の世界を行き来するような状態に陥ることもあった。このような状態のときにお見舞いに伺った筆者に、ご自分のアルバムを見せてくれたことがある。新潟高等学校在学中のものが多く、幾つかの写真には自筆のドイツ語による説明がついていた。当時の旧制高等

学校では、ドイツ語教育に力が入っていたことを伺わせる。このようなことから、井上はドイツの学者や業界人との交流があり、またこれを大切にされた。東京のホテルで行われたお別れの会にも前述のバッハ教授、ヘルマン・リーチェル研究所前所長のフィツナー教授、ベルリンで設備設計事務所を営むヤーン博士らドイツから沢山の弔電、弔文が届けられ和訳されたものが披露された。ご冥福を祈り、天国から何時までも我々を見守っていただきたいと願うものである。

## SHASE-S (スタンダード) 空気調和・衛生工学会規格

SHASE-S 218-2008

# 集合住宅の排水立て管システムの排水能力試験法

総則／清水排水負荷による排水能力試験方法／洗剤排水負荷による負荷方法・測定方法

付属書A (参考) 器具排水負荷方法

付属書B (参考) 解説

解説

- ・平成20年7月7日発行
- ・A4判 24頁
- ・定価980円 会員価格880円(消費税込) 送料350円

ご注文は、下記にご記入のうえ、FAX 03-3363-8266(空気調和・衛生工学会)にてお申し込みください。

配 送 先	会社名	部署名	担当者名	注 文 部 数	冊
	住 所 〒	TEL	FAX		